

問題【国語】

次の文の傍線部のうち、助動詞でないものを選びなさい。

1. 委員に指名される。
2. 一人で作れる。
3. 昔が思い出される。
4. 先生が話される。

豆知識

雑学コラム

ら抜き言葉は誤り？

みなさんは「食べれる」や「来れる」といった「ら抜き言葉」を注意されたことはありますか。「ら抜き言葉」は日本語の乱れとして、よく例に出される表現の一つですね。「作れる」は、ら抜き言葉でなく、「食べれる」は、ら抜き言葉と聞いてふに落ちない人もいるかもしれません。そもそも、何故「ら抜き言葉」を発してしまうのでしょうか。

今回は「ら抜き言葉」について考えてみましょう。まず、助動詞「れる」と「られる」について、使い分けを確認しましょう。ポイントは前に来る言葉の形。「話される」や「書かれる」のように「れる」の前に「未然形がア段の音になる動詞」がくる時に「れる」を使います。一方で、それ以外の「食べる(未然形は食べ)」「起きる(未然形は起き)」のように「未然形がア段以外の音になる動詞」がくる時に「られる」を使います。

「れる」の前には必ずア段の音がなくてはいけないけれど、「食べ」や「起き」だとア段にならないからア段の「ら」を挟むことで「食べ」と「れる」をくっつけているんだとイメージしてください。そう考えると「れる」の前にア段の音がない「食べれる」は不自然な表現だとわかりますね。「ら抜き言葉」を使ってしまう原因に、可能動詞の存在があります。可能動詞とは、「書く」のような五段活用動詞をもとにできた「書ける」のような下一段活用動詞で「できる」という意味を表す言葉です。可能動詞には「作れる」や「走れる」のように「～れる」という形のものがあります。この使い方から連想して、「食べれる」のように五段活用以外の動詞も可能動詞として使ってしまうことを「ら抜き言葉」と呼んでいるのです。

文法上誤りとされる「ら抜き言葉」ですが、実生活ではつい使ってしまいたくなる場面も多くあります。例えば、「このパンは食べられますか。」と言うと、「食べることができる」という可能の意味で使っているのか、「お食べになられますか」という尊敬の意味で使っているのか、相手に混乱させてしまいます。しかし、この場面で「このパンを食べれますか」と言うとき、「食べることができるか」と可能の意味で使っていることをはっきりさせることができますよね。また、最新版の辞書では、「見れる」や「食べれる」を可能動詞として紹介することもあります。「ら抜き言葉」の使い方は注意したいですが、他の人が使っていても日本語の変化として容認してあげてくださいね。

【解答】

(1) 2 (2) 1, 3, 4 (3) 2 (4) 1, 2, 3, 4